

個別施設計画一覧表(橋梁)

【更新年月日：令和2年12月25日】

個別施設 整理番号	林道台帳 索引番号	路線名	林道種類 及び区分	橋梁名	所在地	起点か らの距 離	建年 設年度	供用 年数	種別	型式	道路橋 示方書	橋格 (設計荷 重)	橋下 条件	橋長 (m)	幅員 (m)	上部工型式	橋台工 型式	橋脚工 型式	海岸から の距離 (Km)	施設の現況			計画内容				優先 度	措置記録					備考		
																				点年実施 年月日	判定区分	所見等	計画期間	内容		実施 予定時 期		対策費用 (概算:百万円)	実施 年月日	内容		再判定実施 年月日		再判定区分	
																								分類	概要(数量)					分類	概要(数量)				
		北奈古谷線	自動車道2級	無名橋(北奈古谷線1)	伊豆の国市奈古谷	0.10			RC橋	RC床版橋			河川	6.50	4.70	RC単純床版橋	重力式	-	7.3	R2.9.23	I	-	R3~R7	点検	-	R7	0.5	低							
		南奈古谷線	自動車道2級	無名橋(南奈古谷線1)	伊豆の国市奈古谷	1.35			RC橋	RC床版橋			河川	3.85	3.90	RC単純床版橋	重力式	-	6.1	R2.9.23	I	-	R3~R7	点検	-	R7	0.5	低							
		南奈古谷線	自動車道2級	無名橋(南奈古谷線2)	伊豆の国市奈古谷	0.50			RC橋	RC床版橋			河川	4.30	3.90	RC単純床版橋	重力式	-	6.8	R2.9.23	II	主桁に鉄筋露出	R3~R7	補修	断面修復工	R3	0.7	中							
		中線	自動車道3級	無名橋(中線2)	伊豆の国市中	0.30			その他	溝橋			河川	4.00	5.00	ボックスカルバート(頂版)	ボックスカルバート(側壁・底版)	-	7.2	R2.9.25	I	-	R3~R7	点検	-	R7	0.5	低							
		中線	自動車道3級	第1号橋梁(中線1)	伊豆の国市中	0.20	1982年	38	RC橋	RC床版橋			河川	7.50	4.50	RC単純床版橋	重力式	-	7.1	R2.9.25	I	-	R3~R7	点検	-	R7	0.5	低							
		日影線	自動車道2級	無名橋(日影線1)	伊豆の国市浮橋	0.00			RC橋	RC床版橋			河川	5.15	4.80	RC単純床版橋	重力式	-	5.6	R2.9.24	I	-	R3~R7	点検	-	R7	0.5	低							
		滝ノ沢線	自動車道2級	無名橋(滝ノ沢線1)	伊豆の国市田原野	0.35			RC橋	RC床版橋			河川	2.40	8.00	RC単純床版橋	重力式	-	6.7	R2.9.24	II	床版に鉄筋露出	R3~R7	補修	断面修復工	R3	0.7	中							
		滝ノ沢線	自動車道2級	無名橋(滝ノ沢線2)	伊豆の国市田原野	0.35			その他	溝橋			河川	4.05	8.60	ボックスカルバート(頂版)	ボックスカルバート(側壁・底版)	-	6.2	R2.9.24	I	-	R3~R7	点検	-	R7	0.5	低							
		板橋線	自動車道2級	無名橋(板橋線1)	伊豆の国市長者原	2.00			RC橋	RC床版橋			河川	6.00	7.15	RC単純床版橋	重力式	-	4.0	R2.9.24	II	橋台に欠損	R3~R7	補修	断面修復工	R3	0.7	中							
		城山線	自動車道2級	無名橋(城山線1)	伊豆の国神島	4.50			RC橋	RC床版橋			河川	7.50	7.90	RC単純床版橋	重力式	-	2.7	R2.9.24	I	-	R3~R7	点検	-	R7	0.5	低							
		小杉原線	自動車道3級	無名ボックスカルバート(小杉原線1)	伊豆の国市中	0.05			その他	溝橋			河川	2.46	4.76	ボックスカルバート(頂版)	ボックスカルバート(側壁・底版)	-	7.2	R2.9.23	I	-	R3~R7	点検	-	R7	0.5	低							
		小杉原線	自動車道3級	無名コルゲート管(小杉原線2)	伊豆の国市中	1.10			その他	コルゲート管			河川	2.96	-	コルゲート管	重力式	-	7.4	R2.9.23	II	橋台にひびわれ	R3~R7	補修	ひびわれ補修工	R3	0.6	中							

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	北奈古谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(北奈古谷線1)
施設の所在地	伊豆の国市奈古谷	起点からの距離	0.1km	建設年度	
供用年数		種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.50m		幅員(車道幅員)	4.70m (4.20m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	7.3km		
施設の目的 利用実態等	北奈古谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業体等に利用されている。また、当該林道の沿線には水道施設があり、地域住民にとって重要なインフラ管理道としての機能も有している。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月23日				
	調査結果	地覆に豆板や鉄筋露出が確認された。				
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	施工不良による豆板や鉄筋露出が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和7年度に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用 (概算)	定期点検 約500千円				
管理方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	南奈古谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(南奈古谷線1)
施設の所在地	伊豆の国市奈古谷	起点からの距離	1.4km	建設年度	
供用年数		種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.85m		幅員(車道幅員)	3.90m (3.70m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	6.1km		
施設の目的利用実態等	南奈古谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業体等に利用されている。また、当該林道は沿線住民や近隣地域を結ぶ生活道としての機能も有しており、地域住民の利用も多く見られる。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月23日				
	調査結果	主桁に剥離、地覆に欠損が確認された。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	施工不良による剥離、外的要因による欠損が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和7年度に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約500千円				
管理方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	南奈古谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(南奈古谷線2)
施設の所在地	伊豆の国市奈古谷	起点からの距離	0.5km	建設年度	
供用年数		種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.30m		幅員(車道幅員)	3.90m (3.50m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	6.8km			
施設の目的利用実態等	南奈古谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業体等に利用されている。また、当該林道は沿線住民や近隣地域を結ぶ生活道としての機能も有しており、地域住民の利用も多く見られる。						
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年9月23日					
	調査結果	床版に鉄筋露出が確認された。放置すると鉄筋腐食が進展することが見込まれる。					
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	施工不良による鉄筋露出が考えられる。					
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度					
	内容	断面修復工による補修を行う。					
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和3年度に実施予定とする。					
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。				
	対策費用(概算)	断面修復工 約200千円					
管理方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。						

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)		0.2				0.5				
対策の内容・実施時期		補修工				定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	中線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋(中線2)
施設の所在地	伊豆の国市中	起点からの距離	0.3km	建設年度	
供用年数		種別	その他	型式	溝橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.00m		幅員(車道幅員)	5.00m
	施設の構造等	上部工型式	ボックスカルバート(頂版)			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	—	塗装使用の有無	無	
	橋台工型式	ボックスカルバート(側壁・底版)		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	7.2km		
施設の目的 利用実態等	中線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業者等により頻繁に利用されている。また、森林所有者や狩猟者の利用も見られる。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月25日				
	調査結果	主桁に遊離石灰が確認された。				
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化による遊離石灰が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和7年度に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用 (概算)	定期点検 約500千円				
管理方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	中線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	第1号橋梁(中線1)
施設の所在地	伊豆の国市中	起点からの距離	0.2km	建設年度	1982年
供用年数	38	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.50m		幅員(車道幅員)	4.50m (3.80m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	7.1km			
施設の目的 利用実態等	中線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業者等により頻繁に利用されている。また、森林所有者や狩猟者の利用も見られる。						
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月25日					
	調査結果	損傷は確認されなかった。					
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。				
	劣化原因	—					
長寿 命化 計画 の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度					
	内容	定期点検を行う。					
	実施予定時期	令和7年度に実施する。					
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。				
	対策費用 (概算)	定期点検 約500千円					
管理 方法	管理方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	日影線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(日影線1)
施設の所在地	伊豆の国市浮橋	起点からの距離		建設年度	
供用年数		種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.15m		幅員(車道幅員)	4.80m (4.00m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	5.6km		
施設の目的利用実態等	日影線の利用区域には、早期に整備すべき森林が存在することから、当該施設は林業事業者等に利用されている。また、当該林道は特用林産物の生産や農道としての機能も有しており、地域住民の利用も多く見られる。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月24日				
	調査結果	橋台に欠損が確認された。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	外的要因による欠損が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和7年度に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約500千円				
管理方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	滝ノ沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(滝ノ沢線1)
施設の所在地	伊豆の国市田原野	起点からの距離	0.4km	建設年度	
供用年数		種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.40m		幅員(車道幅員)	8.00m (7.60m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	—	塗装使用の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	6.7km		
施設の目的 利用実態等	滝ノ沢線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業体等により頻繁に利用されている。また、森林所有者や狩猟者の利用も見られる。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月24日				
	調査結果	床版に鉄筋露出が確認された。放置すると鉄筋腐食が進展することが見込まれる。				
	健全性の 診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	施工不良による鉄筋露出が考えられる。				
長寿 命化 計画 の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	断面修復工による補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和3年度に実施予定とする。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。			
	対策費用 (概算)	断面修復工 約200千円				
管理 方法	管理方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。				

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)		0.2				0.5				
対策の内容・実施時期		補修工				定期点検				

備 考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	滝ノ沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(滝ノ沢線2)
施設の所在地	伊豆の国市田原野	起点からの距離	0.4km	建設年度	
供用年数		種別	その他	型式	溝橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.05m		幅員(車道幅員)	8.60m(4.20m)
	施設の構造等	上部工型式	ボックスカルバート(頂版)			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	—	塗装使用の有無	無	
	橋台工型式	ボックスカルバート(側壁・底版)		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	6.2km		
施設の目的 利用実態等	滝ノ沢線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業体等により頻繁に利用されている。また、森林所有者や狩猟者の利用も見られる。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月24日				
	調査結果	舗装にひびわれが確認された。				
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化によるひびわれが考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和7年度に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用 (概算)	定期点検 約500千円				
管理方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	板橋線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(板橋線1)
施設の所在地	伊豆の国市長者原	起点からの距離	2.0km	建設年度	
供用年数		種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.00m		幅員(車道幅員)	7.15m (6.45m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	4.0km		
施設の目的利用実態等	板橋線の利用区域には、早期に整備すべき森林が存在することから、当該施設は林業事業者等に利用されている。また、当該林道は沿線住民にとって生活道としての機能も有しており、地域住民の利用も多く見られる。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月24日				
	調査結果	橋台に欠損が確認された。放置すると歩行者に対する安全確保に影響を及ぼすことが見込まれる。				
	健全性の診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	外的要因による欠損が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	断面修復工による補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和3年度に実施予定とする。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	断面修復工 約200千円				
管理方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)		0.2				0.5				
対策の内容・実施時期		補修工				定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	城山線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(城山線1)
施設の所在地	伊豆の国神島	起点からの距離	4.5km	建設年度	
供用年数		種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.50m		幅員(車道幅員)	7.90m (7.40m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	2.7km		
施設の目的 利用実態等	城山線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業者等により頻繁に利用されている。また、当該林道は周辺の山々のハイキングコースや災害時等の迂回路、近隣地域を結ぶ生活道としての機能も有しており、地域住民やレジャー目的の利用も多く見られる。					

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月24日	
	調査結果	舗装にひびわれが確認された。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
	劣化原因	経年劣化によるひびわれが考えられる。	

長寿 命化 計画 の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	定期点検を行う。	
	実施予定時期	令和7年度に実施する。	
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。
	対策費用 (概算)	定期点検 約500千円	
管理 方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。		

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備 考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	小杉原線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名ボックスカルバート(小杉原線1)
施設の所在地	伊豆の国市中	起点からの距離	0.1km	建設年度	
供用年数		種別	その他	型式	溝橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.46m		幅員(車道幅員)	4.76m (4.00m)
	施設の構造等	上部工型式	ボックスカルバート(頂版)			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	—	塗装使用の有無	無	
	橋台工型式	ボックスカルバート(側壁・底版)		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	7.2km		

施設の目的
利用実態等
小杉原線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業体等により頻繁に利用されている。また、森林所有者や狩猟者の利用も見られる。

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月23日	
	調査結果	損傷は確認されなかった。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
	劣化原因	—	

長寿 命化 計画 の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	定期点検を行う。	
	実施予定時期	令和7年度に実施する。	
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。
	対策費用 (概算)	定期点検 約500千円	
管理 方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。		

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号番号		施設管理者	伊豆の国市
路線名	小杉原線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名コルゲート管(小杉原線2)
施設の所在地	伊豆の国市中	起点からの距離	1.1km	建設年度	
供用年数		種別	その他	型式	コルゲート管
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.96m		幅員(車道幅員)	—
	施設の構造等	上部工型式	コルゲート管			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	—	塗装使用の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	7.4km		
施設の目的 利用実態等	小杉原線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業者等により頻繁に利用されている。また、森林所有者や狩猟者の利用も見られる。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和2年9月23日				
	調査結果	橋台にひびわれが確認された。				
	健全性の 診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	想定外の荷重等によるひびわれが考えられる。				
長寿 命化 計画 の 内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	ひびわれ補修工による補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和3年度に実施予定とする。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。			
	対策費用 (概算)	ひびわれ補修工 約100千円				
管理 方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)		0.1				0.5				
対策の内容・実施時期		補修工				定期点検				

備考										